

二溪の風

県立神奈川工業高校100周年

日本画家で東京芸術大学教授の中島千波(木材工芸50)は、中学校の担任の勧めで入学した。

「家具などの立体的な工業デザインを学ぶ学科ということが入学後に知りました」と笑うマイペースな性格のせいとか、授業の半分が実習という工業高校は「僕に合っていて楽しかった」。特に力学やデザイン、製図などが面白かったという。

卒業後は東京芸大の日本画科に進み、日本画家の父と同じ道を歩む。父にはよく、絵がデザイン的だと評されたそうだ。「確かに、画面を4分割し中心点を

新しい表現求め創作

アート(1)

①

出してから構成を考えるなど、神工でデザインを学んだ影響はあると思います」

岩絵の具や墨など伝統的素材で新しい表現を追求し、「衆生」「形態」「眠」「空」などのシリーズで院展奨励賞や山種美術館賞展優秀賞などを受賞。宮尾登美子などの小説の挿絵でも知られる。

「今思えば、神工のゆるやかで自主性を重んじる空気が、絵



平岩 共代
さん



中島 千波
さん

描きとして生きるための自立心を伸ばしてくれました」

現在芸大で教壇に立つが、痛感するのはものづくりと手仕事の親密な関係。「技術がいくら進んでも、ものづくりには手仕事の部分が必要。その基礎技術は10代でしっかり身に付ける必要がある。神工のような実業高校の役割は、今後あらためて高まるのでは」

金属造形作家の平岩共代(工芸答案53)は、金属(メタル)工芸を国際レベルのアートとすべく活動する「メタルアーティスト」。海外での評価も高く、ニューヨークやドイツの美術館で永久収蔵される作品も多い。母に「女性も職業を持つべき」と言われ入学したが、全校で男子約900人に対し女子約60

人。女子が圧倒的に少ないため、体育はサッカーや剣道、柔道まで男女混合だった。部活動は郷土研究部に所属し、民俗調査などに夢中で取り組んだ。

卒業後、東京芸大名誉教授の山下恒雄(答案29、故人)の下で美術学部美術教育専攻研究生として学ぶ。作家間の国際交流にも積極的で、昨年、奈良市で開かれた平城遷都1300年記念展「日本・中国・韓国 現代メタルアート展」では実行委員長を務めた。

文化庁の派遣で経験したニューヨーク生活をテーマに、金属と和紙を組み合わせた「オーガニック・ハイブリッド」シリーズなど意欲的な創作を続ける。敬称略、()内は専攻科と通算卒業期

今年創立100周年を迎えた県立神奈川工業高校。多彩な分野で活躍する卒業生を紹介する。